

神樹の会会報

No. 7

昭和60年3月1日

本部事務所：神戸市灘区備後町3丁目2番22号

六甲作業所内 TEL(078)821-1533

(事業所)

六甲作業所及び東部生活訓練所
〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号 ☎821-1533

垂水作業所及び西部生活訓練所
〒655 神戸市垂水区星陵台4丁目4番45号 ☎782-9675

福祉の店「いたやど」
〒654 神戸市須磨区大黒町2丁目2-12 ☎733-2477

ご卒業おめでとう！

十三人の若人 実社会へ門出

神戸市立友生養護学校並びに垂水養護学校では、三月一日(金)多くの来賓、職員、父兄、在校生の見守る中に、高等部の卒業証書授与式が厳かに行なわれました。

本年度卒業された方々は次の通りです。(内は進路希望先です。)

神戸市立友生養護学校卒業生

- 福田 浩二 (県身体障害者職業訓練校)
- 豚座 二 (県身体障害者職業訓練校)
- 武田 智子 (神樹の会 東部生活訓練部)
- 谷掛 智子 (授産施設 もとやま園)
- 西山 美由紀 (神樹の会 六甲作業所)

- 神戸市立垂水養護学校卒業生
- 井上 広隆 (神樹の会 垂水作業所)
- 新宮 茂樹 (重度身体障害者生活指導所)
- 山本 末由 (玉津リハ・機能回復訓練課)
- 伊沢 正恵 (重度身体障害者生活指導所)
- 川崎 律子 (神樹の会 垂水作業所)
- 下村 愛子 (授産施設 友生園)
- 福田 ゆかり (重度身体障害者生活指導所)
- 藤本 久代 (玉津リハ・機能回復訓練課)

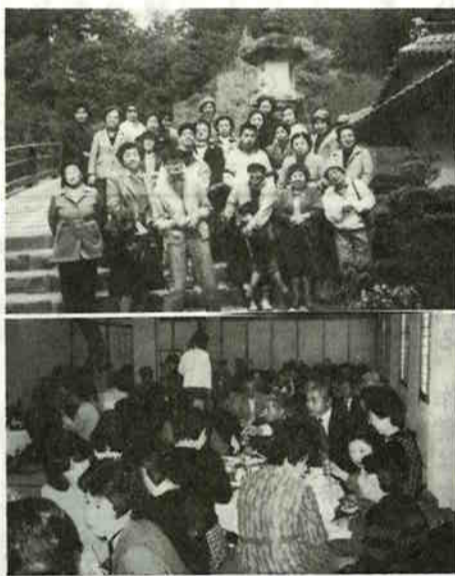
卒業生のみならずそれぞれ重い障害をもちながらも、十余年の学業や訓練を終えられましたことは誠に同慶の至りです。そして、また新しく社会人として厳しい道を歩まれるわけです。前途のご多幸をお祈りします。ここまでご養育されましたご両親さまには感慨無量なものがあろうでしょう。おめでとう存じます。

神樹の会の楽しい集い

一、神樹の会OBグループ 紅葉の旅

十一月二十五日(日) 神樹の会OBグループ二六名は超デラックスなサロンバスを利用して、晩秋の室生寺・談山神社の紅葉の旅に出かけました。履物を脱いであがるバスの中はお座敷並で、後部にはサロン室が設けられ実に快適なバス旅行で雑談の中に室生寺に到着した。女人高野といわれるだけに万事が小作り優しく、紅葉の山麓にひっそりと静まりかえり寺院には格別の趣があった。境内を散策し、山菜料理で有名な橋本旅館の別館で十種に余る山菜の珍

味を味わった。殊に山の芋がおいしかった。食後一時間余りで藤原鎌足をまつる談山神社に到着した。晩秋の紅葉が山ふところいっぱい彩り、上り下りの急坂の境内を散策し名物の草餅を味わった。高台から眺める神社は大規模な景観が折りからの夕照を受けて殊の外印象的で十三層の塔に当時の面影が感じられた。帰路も快適に定刻まえに神戸に着いた。



写真は上は室生寺でのOB会員、下は神樹の会新年会

二、神樹の会 新年の集い

恒例の神樹の会新年の集いは一月十三日午後一時より第一楼で開かれた。OB、友生・垂水の会員及びお忙しい中を長谷川・岡・清水各養護学校校長、岡本前垂水養護学校校長、橋本みどり会会長、北指導主事も参加され総勢百二十余名の集いとなった。

牧野会長より神樹の会の昨年の活動状況、第十三回バザーの成果と感謝のことは、長谷川校長の祝賀の挨拶があり、十一のテーブルにわかれて中華料理を味わいつつ歓談に入った。会員有志による自慢のカラオケや毛利先生の指揮で垂水養のお母さん方のコーラス「もしも明日が」が歌われ和やかな会となった。最後に会員一同輪になって「銀色の道」を歌い、岡校長の閉会のことばの後散会した。

昭和五十九年度 神樹の会

△△員夕刊簿完成

会員のみならずまからご要望のあった神樹の会の会員名簿がこの程完成しました。どうぞご活用下さるようお願いいたします。校正を致しましたが何分発行を急ぎましたので会員で記載されていない方がいらつしやらないか、又、誤字があればしなやか心配しております。どうぞそのような場合は事務所までご連絡くださいますようお願い致します。

第三回

福祉施設建設委員会 報告

第二回建設委員会定例会はカトレアの園の見学、第三回定例会は二月五日(火)中部いこいの家に於いて市の民生局障害福祉室より武衛課長、樋口、安井係長をお招きして施設の整備計画についてご指導をお受けしました。

一、施設を建設するには施設を必要とする理由が大切である

現在神戸市に在住する在宅障害児がどれほどいるか、その中に現在の養護学校在校生を含めて収容施設に入所したいという切なる願望をもつものがどれほどいるか。その数を把握して、その要求に應ずるために優先的に建設して欲しいと申請しなければならぬ。

二、施設の建設場所については神戸市民生局に全面的にお願ひしなくてはならない。

場所・敷地面積についても将来の諸活動に適するところを選んで欲しい。

三、授産施設であるためには授産計画を立てなくてはならない。

どんな作業を、どんな企業と提携し、どのような方法で進めていくか、製品の販路についての計画も立てる必要がある。

四、授産施設の配置図、平面図を作成しなくてはならない。

次の頁の「カトレアの園」のように居室・授産訓練室・事務室・食堂会議室・浴室・便所・指導員室・寮母室・職員住宅など出来るだけ具体的に計画を作り関係方面に提示しなければならぬ。

五、整備費の概要計画について

ア 総事業費として主体工事費とその他の工事費
その中に補助金に該当するものなどの計画作成
イ 設備整備費として初年度調弁費・バス購入計画
など細かな必要品を計算する六、財源計画・借入金・補助金・寄付金の内容など具体的な整備計画を作成しなければならぬ。

私達はともすればいつかは誰かが作ってくれるだろうという安易な考えをもちやすいがそれでは運動が進まないのではなからうか。会員各位の積極的な協力を望みたいものである。

第四回委員会は二月二〇日 和田山町の恵生園を見学する予定です。

神戸市立友生養護学校 創立三十年
神戸市立垂水養護学校 創立十年
神戸に於ける

肢体不自由児教育の歴史

その一

一、学校開設までの経緯

A 佐藤宏博士の熱意の検診

昭和二十八年スポーツ医学の權威、故佐藤宏博士は兵庫県にかなりの肢体不自由児がいると予測され、その調査を始められた。博士はただ一人で丹念に八十数回の検診をされ、二千三百名に及ぶ調査表を作られた。この検診がそれ以降の肢体不自由児の様々なPRともなり、肢体不自由児学級や養護学校設立の引き金となった。

B 木戸教育長の決意と原口市長の協力

佐藤博士の神戸市内の肢体不自由児検診は、昭和二十九年の八月、九月にかけて行なわれ、六百三名が検診を受けた。この検診の様子を視察された当時の木戸教育長は非常なショックを受けられ神戸市に肢体不自由児の学校を設置する決意を固められたのである。

この木戸教育長の決意は原口市長を動かす、市長自ら積極的に、「自分の在任中に、必ず学校を完成させる」と明言され、市立養護学校設立に踏み切られたのである。病院併設論なども色々検討されたが、養護学校建設が急務ということになったようである。養護学校設立準備委員会がもたれるようになり、当時の県立医大の整形外科部長柏木大治教授も参加され医療方面での全面的な支援態勢を約束された。開校後も柏木教授、坂田政泰博士の援助を受けた。

C 住吉小学校の北校舎に決定

神戸市東灘区にある住吉小学校は当時北校舎が空いており、場所も美しく静かで理想的な環境であったので、養護学校設置の候補地として交渉が始められた。

当時は今ほど障害児に対する理解が乏しかったので、地元では養護学校設置に反対

の声もあった。住吉小学校の父兄達から「恵まれぬ子どもたちを援助するのは我々の務めではないか」との意見が次第に多くなり始めた。ことに住吉小学校で映画「しいのみ学園」が上映されてからは一層この機運が高まり、ついに地元の全面的な協力を得るようになった。

このようにして養護学校の設置場所は、住吉小学校北校舎に決定したのである。

D 苦難の開校準備

学校設置場所が決定したので、神戸市教育委員会は、体育保健課の逸見逸一課長を中心に、学校の施設設備計画にとりかかった。しかし当時は近くに養護学校もなく、どのような施設設備が必要なのか全く見当もつかない状態であった。

逸見課長の命令を受けて、南兼一主査は佐藤博士と共に東京の光明養護学校や整肢療養園に行かれ、設備の細かいところまで見学してこられた。また各地の病院や施設を見学して、その知識をもとにして業者を督促し、校舎や訓練器具の設備を整えていった。

特に苦心されたのは美しい環境にふさわしい色調のものを配置することであつて、訓練器具などにもその配慮がなされたし、校庭には全部芝生を植えバラやサンゴ樹などを配したのもそのためであった。

なお、児童、生徒の使う訓練器具の多くは、南主査が研究し、自分で図面をひき、業者に特別注文されたのである。

(次号につづく)

授産施設 カトレアの園 見聞記

十二月五日 設立準備委員は武庫川の清流のほとりにある 重度身体障害者授産施設カトレアの園へ見学に行った。予め見学の依頼をしていたため、小西園長自らの出迎えをうけ、設備の整った応接室にて懇切丁寧な説明をお聞きしました。

精神薄弱者収容授産施設「松の園」が併設されているが、総敷地面積は約一万平方米である。その中にカトレアの園の建物(鉄筋コン

クリート造り一部2階建)の床面積は約千九百平方メートルがある。主な部屋として、9つの居室(約四百三十平方メートル)授産・訓練室(四百四十平方メートル)食堂・会議室(約百八十平方メートル)指導員室寮母室 医務静養室 浴場 職員住宅などがおかれている。建設費は3億円(昭和四十四年当時)であった。

職員構成は園長一、事務員一、指導員五、寮母四、看護婦一、調理人四、栄養士一、介助員一、医師一の計十九人とそれ以外に松の園との兼職四とパート四の合計二十七人でお世話しているとのことであった。



社会福祉法人 尼崎武庫川園
〒663 西宮市田近野町7番32号
カトレアの園

収容定員五十人。授産指導内容として、タイプ・印刷・写真植字・彫刻・木工・ミシン加工・アートフラワー・編物・織物・手芸・陶芸・園芸などが行なわれ入園者は随意自己の能力に合った指導訓練を受ける。その上日常生活を通して、基本的な生活習慣を身につけるとともに集団における人間関係、協調性が指導される。作業は土曜日の午前中で終わり、午後は全くの自由時間で帰宅も許されている。説明後、園内の見学をさせていたのだが、清潔で行き届いた設備の中で園生はそれぞれ楽しんで作業したり、くつろいでいたりして生活を目指す施設建設のビジョンを見るように心強く思われた。心から感謝を申し上げ希望に胸をおどらせつつ帰途についた。

障害者交流ホーム 友愛館の案内

既に新聞で報道された通り須磨区友が丘にある身体障害者療養施設「神戸愛生園」が在宅障害者や入園者と地域の人たちとの触れ合いの場を目指し建設された地域交流ホーム「友愛館」の完成式が去る十二月十五日に行なわれた。この度、設備・備品も完備されいよいよ三月一日より利用者に開放されることになった。

同館は総工費五千万円で建設されたもので鉄筋コンクリート平屋建、二百八十平方メートル。ホール・キッチン・浴室・三つの和室などがある。障害者が利用しやすいように工夫され、たとえば浴室や和室への出入口にはリフトが設けられ、重度の障害者も楽に入浴出来るようになった。

利用者は研修 十時から二十一時まで 宿泊 十六時から翌日の十時まで 利用することが出来る。尚、利用料金は午前中 八百円 午後 千円 夜間 千三百円で和室をさせる。宿泊は一人 千五百円になっている。食事はキッチンを利用して自炊することが出来る。

利用者は「友愛館利用願」を愛生園園長宛に提出して、その許可を得ることになっている。詳細は電話(七九一-二二二二)友生園でお尋ね下さい。

閑静な須磨の高台にある障害者にとつては設備の完備した「友愛館」でグループ、家族連れで一泊 静養されてはいかがでしょう。



友愛館配置図
図の北側が愛生園